

仁賀保高校「学習センター」

昨年7月の市長コラム・No.66「仁賀保高校の魅力化」で報告したように、仁賀保高校は高校再編計画素案の中では統合対象とされていましたが、第8次案では統合対象から外れることになりました。簡単な経過などについてはNo.66コラムで述べましたのでここでは省略します。今回のコラムでは高校魅力化に向けた具体的な取組みについて報告したいと思います。

■魅力化の方向性

大切な視点は「だれのための魅力化なのか」と思います。これまでも仁賀保高校と市は連携協定を結びながら、まちづくりのパートナーとして一緒にやってさまざまな事業に取り組んできました。連携協定を結んだ背景には、県立であることの垣根を越えて仁賀保高校に積極的に関わらなければならないという使命感もありますが、それ以上に仁賀保高校の存続に市は強い意志をもって取り組むということを市内外に、特に多くの市民の方々に理解してもらわなければならないと考えたからです。

とは言え、これだつて「地元で高校が無くなったら大変だ」といった大人の事情の裏返しに過ぎません。確かに、魅力化事業に取り組むことのきっかけは「高校の存続」だったかもしれませんが、最終的に進学するのは子どもたちです。その子どもたちが仁賀保高校に魅力を感じ、自己実現の場

として選択してくれるようにならないければ存続はままならないと思います。

■魅力つてなに？

先日、「若者円卓会議」のメンバーと意見交換をしました。その中で出された意見に「にかほ市にとって仁賀保高校は不可欠。魅力的な学校になるのための一つの方法として看板になる部活をつくるのはどうか」というものがありました。確かに、かつての仁賀保高校には看板的な部活動がありました。地域特性を生かした山岳部などはインターハイの常連でした。中でも特にすばらしかったのは吹奏楽部でした。全日本吹奏楽コンクールの県代表として金賞を獲るほどの実力でした。当時、中学校の吹奏楽部の生徒の中に「吹奏楽部に入部するために仁賀保高校に進学する」という生徒がいたのを思い出します。

ただ、この例をもって「高校の魅力化とはこうである」と言うにはあまりにも単純すぎるかもしれません。一方で、その高校に「やりたいことがある」ということは、子どもたちが高校を選択するときの大きな理由の一つになるのは確かです。自分のことを振り返ってみても子どもの頃は単純で、そこに夢中になれるものがあるかないかが選択するときの重要な要素の一つでした。

だからこそ高校には、生徒たちが学生生活を通して、多くの知恵を学び、さまざまな経験をしながら社会に出ていくための成長の場所として多くの学びの機会

が準備されているべきだと思うのです。

■学習センター

昨年6月、高校内に「にかほ市学習センター」がオープンしました。仁賀保高校に通う生徒を対象にしたこの学習センターには3人の専属スタッフが配属されています。彼ら3名は「高校生活の『困った』を解決!」をスローガンに、日常的な学校の宿題はもちろん、受験対策や資格試験対策、地域探究活動に伴走をしてくれます。センターは大学受験から就職まで幅広く対応するなど生徒たちの成長に深く関わってくれます。

このセンターは費用負担のない無料塾です。ですが単なる無料塾ではありません。*STEAM教育の実践を目指した場所でもあり、仲間とつながる協働の場、未来につながる成長の場、地域とつながる交流の場として、生徒たちが自分のやりたいことや思いを発見し、実現させていくための道しるべになる場所です。実際、開設から9カ月、すでにセンターを利用する複数の生徒が新たな進路を見つけて前に進み出しています。今後の展開がとて楽しみます。



にかほ市長
市川雄次

*STEAM教育…科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、芸術(Art)、数学(Mathematics)、の5つの分野を横断的に学び、複雑化する社会課題に対応できる創造性や問題解決能力を育む教育手法。

創造を
想像する

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

